

学校給食(提供食)の放射性物質測定の結果

測定機器 ゲルマニウム半導体検出器 (CANBERRA製 GC2020)
 測定時間 2,000秒
 測定方法 学校給食で実際に児童に提供した1食分を1週間分まとめて検査
 岩井、猿島学校給食センターを一週間交代で実施

平成29年度 1学期

測定結果と内部被ばくの実効線量

平成30年4月3日現在

給食提供期間 (5日分)	施設名	合計重量 (Kg)	検査日	測定結果 (Bq/Kg)		放射性セシウムによる 内部被ばくの実効線量 (μ Sv)
				セシウム134	セシウム137	
4月10日～4月14日	猿島学校給食センター	2.960	4月17日	検出せず (< 0.65)	検出せず (< 0.97)	0 ~ 0.074 未満
4月17日～4月21日	岩井学校給食センター	3.610	4月21日	検出せず (< 0.69)	検出せず (< 0.73)	0 ~ 0.082 未満
4月24日～4月28日	猿島学校給食センター	3.317	4月28日	検出せず (< 0.73)	検出せず (< 0.80)	0 ~ 0.080 未満
5月8日～5月12日	猿島学校給食センター	3.345	5月12日	検出せず (< 0.73)	検出せず (< 0.83)	0 ~ 0.082 未満
5月15日～5月19日	岩井学校給食センター	3.730	5月19日	検出せず (< 0.80)	検出せず (< 0.97)	0 ~ 0.104 未満
5月22日～5月26日	猿島学校給食センター	3.100	5月26日	検出せず (< 0.71)	検出せず (< 0.87)	0 ~ 0.077 未満
5月29日～6月2日	岩井学校給食センター	3.510	6月2日	検出せず (< 0.73)	検出せず (< 0.90)	0 ~ 0.090 未満
6月5日～6月9日	猿島学校給食センター	3.022	6月12日	検出せず (< 0.86)	検出せず (< 0.64)	0 ~ 0.075 未満
6月12日～6月16日	岩井学校給食センター	3.399	6月16日	検出せず (< 0.69)	検出せず (< 0.89)	0 ~ 0.084 未満
6月19日～6月23日	猿島学校給食センター	2.927	6月23日	検出せず (< 0.76)	検出せず (< 0.94)	0 ~ 0.078 未満
6月26日～6月30日	岩井学校給食センター	3.553	6月30日	検出せず (< 0.68)	検出せず (< 0.72)	0 ~ 0.079 未満
7月3日～7月7日	猿島学校給食センター	2.942	7月7日	検出せず (< 0.80)	検出せず (< 0.83)	0 ~ 0.076 未満
7月10日～7月14日	岩井学校給食センター	3.762	7月14日	検出せず (< 0.75)	検出せず (< 0.87)	0 ~ 0.096 未満

- ・測定結果の()の数値は、測定機器の検出限界値を表示しています。
 例えば、「検出せず(< 0.54)」と表示されている場合、放射性物質の測定値は0 ~ 0.54Bq/Kg未満の範囲ということです。
- ・検出限界値は、測定機器や測定試料の性質等により変動しますので、測定ごとに数値は異なります。
- ・放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量は、「検出せず」の場合、セシウム134と137がそれぞれ検出限界値と等量含まれていたと仮定して計算しています。また、計算に用いる実効線量係数は、学校給食を提供している年齢の範囲で最も高い係数を使用しています。
 (計算例) 1週間分の給食(合計重量3.268kg)を測定した結果、セシウム134が 0.54Bq/Kg 、セシウム137が 0.71Bq/Kg 検出された場合。
 内部被ばくの実効線量(μ Sv) = 放射能濃度(Bq/Kg) × 実効線量係数(μ Sv/Bq) × 合計重量(Kg)
 セシウム134: $0.54\text{Bq/Kg} \times 0.019 \mu\text{Sv/Bq} \times 3.268\text{Kg} = 0.034 \mu\text{Sv}$
 セシウム137: $0.71\text{Bq/Kg} \times 0.013 \mu\text{Sv/Bq} \times 3.268\text{Kg} = 0.030 \mu\text{Sv}$
 放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量: $0.034 \mu\text{Sv} + 0.030 \mu\text{Sv} = 0.064 \mu\text{Sv}$
- 仮に、この給食を1年間(42週)食べた場合の放射性セシウムによる内部被ばく線量を試算すると、
 $0.064 \mu\text{Sv} \times 42 = 2.7 \mu\text{Sv/年}$ (0.0027mSv/年)となります。
 この値は、下記の数値と比較しても極めて低い数値です。

(参考)
 厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している値: 1mSv/年
 自然のカリウムから受ける内部被ばく線量: 0.18mSv/年

学校給食(提供食)の放射性物質測定の結果

測定機器 ゲルマニウム半導体検出器 (CANBERRA製 GC2020)
 測定時間 2,000秒
 測定方法 学校給食で実際に児童に提供した1食分を1週間分まとめて検査
 岩井、猿島学校給食センターを一週間交代で実施

平成29年度 2学期

測定結果と内部被ばくの実効線量

平成30年4月3日現在

給食提供期間	施設名	合計重量 (Kg)	検査日	測定結果 (Bq/Kg)		放射性セシウムによる 内部被ばくの実効線量 (μ Sv)
				セシウム134	セシウム137	
9月4日～9月8日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.135	9月8日	検出せず (< 0.76)	検出せず (< 0.89)	0～0.082 未満
9月11日～9月15日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.003	9月15日	検出せず (< 0.69)	検出せず (< 0.78)	0～0.070 未満
9月19日～9月22日 ※9/18祝日 (4日分)	猿島学校給食センター	2.136	9月22日	検出せず (< 0.71)	検出せず (< 0.84)	0～0.052 未満
9月25日～9月29日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.362	9月29日	検出せず (< 0.82)	検出せず (< 0.92)	0～0.093 未満
10月2日～10月6日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.116	10月6日	検出せず (< 0.73)	検出せず (< 0.90)	0～0.080 未満
10月10日～10月13日 ※10/9祝日 (4日分)	岩井学校給食センター	2.966	10月13日	検出せず (< 0.74)	検出せず (< 1.03)	0～0.081 未満
10月16日～10月20日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.086	10月20日	検出せず (< 1.01)	検出せず (< 0.91)	0～0.096 未満
10月24日～10月27日 ※10/23臨時休校 (4日分)	岩井学校給食センター	2.885	10月27日	検出せず (< 0.89)	検出せず (< 1.06)	0～0.089 未満
10月30日～11月2日 ※11/3祝日 (4日分)	猿島学校給食センター	2.415	11月2日	検出せず (< 1.01)	検出せず (< 0.98)	0～0.077 未満
11月6日～11月10日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.542	11月10日	検出せず (< 0.98)	検出せず (< 1.06)	0～0.115 未満
11月14日～11月17日 ※11/13県民の日 (4日分)	猿島学校給食センター	2.458	11月17日	検出せず (< 0.99)	検出せず (< 0.90)	0～0.075 未満
11月20日～11月24日 ※11/23祝日 (4日分)	岩井学校給食センター	3.100	11月24日	検出せず (< 0.89)	検出せず (< 1.06)	0～0.095 未満
11月27日～12月1日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.173	12月1日	検出せず (< 0.77)	検出せず (< 0.61)	0～0.072 未満
12月4日～12月8日 (5日分)	岩井学校給食センター	4.000	12月8日	検出せず (< 0.98)	検出せず (< 0.84)	0～0.118 未満
12月11日～12月15日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.139	12月15日	検出せず (< 0.71)	検出せず (< 0.84)	0～0.077 未満
12月18日～12月22日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.940	12月22日	検出せず (< 0.66)	検出せず (< 0.94)	0～0.098 未満

- ・測定結果の()の数値は、測定機器の検出限界値を表示しています。
 例えば、「検出せず(< 0.54)」と表示されている場合、放射性物質の測定値は0～0.54Bq/Kg未満の範囲ということです。
- ・検出限界値は、測定機器や測定試料の性質等により変動しますので、測定ごとに数値は異なります。
- ・放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量は、「検出せず」の場合、セシウム134と137がそれぞれ検出限界値と等量含まれていたと仮定して計算しています。また、計算に用いる実効線量係数は、学校給食を提供している年齢の範囲で最も高い係数を使用しています。

(計算例) 1週間分の給食(合計重量3.268kg)を測定した結果、セシウム134が 0.54Bq/Kg 、セシウム137が 0.71Bq/Kg 検出された場合。
 内部被ばくの実効線量(μ Sv) = 放射能濃度(Bq/Kg) × 実効線量係数(μ Sv/Bq) × 合計重量(Kg)
 セシウム134: $0.54\text{Bq/Kg} \times 0.019 \mu\text{Sv/Bq} \times 3.268\text{Kg} = 0.034 \mu\text{Sv}$
 セシウム137: $0.71\text{Bq/Kg} \times 0.013 \mu\text{Sv/Bq} \times 3.268\text{Kg} = 0.030 \mu\text{Sv}$
 放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量: $0.034 \mu\text{Sv} + 0.030 \mu\text{Sv} = 0.064 \mu\text{Sv}$

仮に、この給食を1年間(42週)食べた場合の放射性セシウムによる内部被ばく線量を試算すると、
 $0.064 \mu\text{Sv} \times 42 = 2.7 \mu\text{Sv/年}$ (0.0027mSv/年)となります。
 この値は、下記の数値と比較しても極めて低い数値です。

(参考)
 厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している値: 1mSv/年
 自然のカリウムから受ける内部被ばく線量: 0.18mSv/年

学校給食(提供食)の放射性物質測定の結果

測定機器 ゲルマニウム半導体検出器 (CANBERRA製 GC2020)
 測定時間 2,000秒
 測定方法 学校給食で実際に児童に提供した1食分を1週間分まとめて検査
 岩井、猿島学校給食センターを一週間交代で実施

平成29年度 3学期

測定結果と内部被ばくの実効線量

平成30年4月3日現在

給食提供期間	施設名	合計重量 (Kg)	検査日	測定結果 (Bq/Kg)		放射性セシウムによる 内部被ばくの実効線量 (μ Sv)
				セシウム134	セシウム137	
1月9日～1月12日 ※1/8祝日 (4日分)	猿島学校給食センター	2.713	1月12日	検出せず (< 0.96)	検出せず (< 0.92)	0 ～ 0.082 未満
1月15日～1月19日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.483	1月19日	検出せず (< 1.08)	検出せず (< 1.20)	0 ～ 0.126 未満
1月22日～1月26日 ※1/23臨時休校 (4日分)	猿島学校給食センター	2.714	1月26日	検出せず (< 0.65)	検出せず (< 1.11)	0 ～ 0.073 未満
1月29日～2月2日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.380	2月2日	検出せず (< 0.86)	検出せず (< 0.92)	0 ～ 0.096 未満
2月5日～2月9日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.221	2月13日	検出せず (< 0.79)	検出せず (< 0.92)	0 ～ 0.087 未満
2月13日～2月16日 ※2/12振替 (4日分)	岩井学校給食センター	3.226	2月16日	検出せず (< 0.99)	検出せず (< 0.92)	0 ～ 0.099 未満
2月19日～2月23日 (5日分)	猿島学校給食センター	2.878	2月23日	検出せず (< 0.80)	検出せず (< 0.78)	0 ～ 0.073 未満
2月26日～3月2日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.859	3月2日	検出せず (< 0.88)	検出せず (< 0.88)	0 ～ 0.109 未満
3月5日～3月9日 (5日分)	猿島学校給食センター	3.303	3月12日	検出せず (< 0.84)	検出せず (< 1.04)	0 ～ 0.097 未満
3月12日～3月16日 (5日分)	岩井学校給食センター	3.506	3月16日	検出せず (< 0.72)	検出せず (< 0.95)	0 ～ 0.091 未満
3月19日～3月23日 ※3/21祝日 (4日分)	猿島学校給食センター	2.514	3月23日	検出せず (< 0.67)	検出せず (< 0.86)	0 ～ 0.060 未満

- ・測定結果の()の数値は、測定機器の検出限界値を表示しています。
 例えば、「検出せず(< 0.54)」と表示されている場合、放射性物質の測定値は0～0.54Bq/Kg未満の範囲ということです。
- ・検出限界値は、測定機器や測定試料の性質等により変動しますので、測定ごとに数値は異なります。
- ・放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量は、「検出せず」の場合、セシウム134と137がそれぞれ検出限界値と等量含まれていたと仮定して計算しています。また、計算に用いる実効線量係数は、学校給食を提供している年齢の範囲で最も高い係数を使用しています。
 (計算例) 1週間分の給食(合計重量3.268kg)を測定した結果、セシウム134が0.54Bq/Kg、セシウム137が0.71Bq/Kg検出された場合。
 内部被ばくの実効線量(μ Sv) = 放射能濃度(Bq/Kg) × 実効線量係数(μ Sv/Bq) × 合計重量(Kg)
 セシウム134: 0.54Bq/Kg × 0.019 μ Sv/Bq × 3.268Kg = 0.034 μ Sv
 セシウム137: 0.71Bq/Kg × 0.013 μ Sv/Bq × 3.268Kg = 0.030 μ Sv
 放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量: 0.034 μ Sv + 0.030 μ Sv = 0.064 μ Sv
 仮に、この給食を1年間(42週)食べた場合の放射性セシウムによる内部被ばく線量を試算すると、
 0.064 μ Sv × 42 = 2.7 μ Sv/年 (0.0027mSv/年)となります。
 この値は、下記の数値と比較しても極めて低い数値です。
 (参考)
 厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している値: 1mSv/年
 自然のカリウムから受ける内部被ばく線量: 0.18mSv/年